

## マウナケア・コインコンテスト：マウナケア天文台群によるアートと融合した教育プログラム

○臼田-佐藤 功美子<sup>1</sup> Nadine Manset<sup>2</sup> Leinani Lozi<sup>3</sup> Krystal Schlechter<sup>4</sup> (1.国立天文台ハワイ観測所 2.Canada-France-Hawaii Telescope 3.International Gemini Observatory/NSF NOIRLab 4.Maunakea Visitor Information Station)

ハワイ島マウナケアは、世界有数の天文観測地であると同時に、ハワイ文化や在来の動植物など、多様な側面において地域社会にとって重要な意味を持つ象徴的な山である。マウナケア・コインコンテスト (Maunakea Coin Contest) は、こうしたマウナケアの多面的な価値を次世代へ伝えることを目的として、マウナケア天文普及委員会 (MKAOC: Maunakea Astronomy Outreach Committee) が2011年から毎年実施しているデザインコンテストである。ハワイ島の児童・生徒を対象とし、参加者にはハワイ文化、自然環境、星空や天文台群など、マウナケアを特徴づける複数の要素を組み合わせたデザインを制作することを推奨している。最優秀作品は直径約4 cmの記念コインとして製作され、MKAOCのアウトリーチ活動を通じて広く配布される。

本コンテストは、地域連携や他のアウトリーチ活動との連携を重視して運営されている点に特徴がある。応募作品の受付には、ハワイ島内に複数店舗を展開する地元スーパーがスポンサーとして協力している。また、天文台群の山麓施設が存在しない島西部コナ地域では、地域の教育プログラムと連携して宣伝を行っている。さらに、毎年11月にコナで開催される「アストロ・デー・ウェスト」でコンテストを開始し、翌年5月にヒロで開催される「アストロ・デー」で表彰式を行うことで、島の東西両地域における認知度向上を図っている。審査には天文学だけでなく、ハワイ文化や自然環境の専門家も参加し、多分野の視点から作品を評価している。

2026年に第16回を迎えた本コンテストでは、最優秀作品のデザイン性が年々向上するとともに（画像参照）、マウナケアに関連するハワイの伝承・物語的要素を取り入れた作品が増加するなど、参加者の理解の深化がうかがえる。また、学校単位で継続的に応募する小学校や、授業のカリキュラムにコンテストを取り入れる美術教員も現れ、教育活動として地域に定着しつつある。

本講演では、マウナケア・コインコンテストの概要と16年間の歩みを紹介するとともに、児童・生徒や教員が主体的にマウナケアについて学ぶ機会としての意義、ならびに地域と天文台群を結ぶアウトリーチ活動としての発展可能性について考察する。

コンテスト公式サイト：<https://www.maunakeaobservatories.org/coin-contest>

※過去の入賞作品が見られるアーカイブページあり

すばる望遠鏡トピックス（日本語）：<https://subarutelescope.org/jp/news/topics/2026/07/01/3735.html>